

# へきけんニュース

ホームページ [http://www.hokkyodai.ac.jp/edu\\_center\\_remoteplace/](http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/)  
メールアドレス [kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp](mailto:kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp)  
☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



## 第18回 へき地教育推進フォーラム

### 『日本の未来の教育を創造するへき地・小規模校教育』開催!! 文部科学省学校教育官の石田有記氏が講演されました

#### 【170名がオンラインフォーラムに参加しました!!】

令和2年12月3日(木)、第18回へき地教育推進フォーラム「日本の未来の教育を創造するへき地・小規模校教育」を、オンライン配信で開催しました。当初3月7日に旭川校で開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響により延期され、同フォーラムでは初めてオンラインによる開催となりました。大学教職員、小・中・高等学校教員、教育委員会関係者など、全国各地から計170名もの関係者にご参加頂きました。ありがとうございました。

当日は、蛇穴 治夫学長の主催者挨拶に始まり、文部科学省初等中等教育局教育課程課 学校教育官 石田 有記氏による講演「新しい学校教育課程とへき地・小規模校に期待する実践」が行われました。



講師：石田 有記 氏  
(文部科学省 初等中等教育局教育課程課 学校教育官)

#### 【参加者から好感想が多く寄せられました】

参加者からは「指導要領の新しい考え方が、へき地教育の取り組みと連動していることが分かりました。」「現代の教育政策におけるへき地教育の取組や教育活動の重要性を再認識しました。」との感想が聞かれました。

また、初の試みであるオンラインでの配信については、「オンラインで行うことで、気軽に参加できるようになったことが大変素晴らしい」、「全国各地からの参加が多くみられよかった」等の感想があり、一定の評価を得ることができました。



主催者挨拶：北海道教育大学長 蛇穴 治夫

これを踏まえ、オンライン配信について、技術的な面の改善と参加者同士での情報共有の手法を考えていきます。

## 【講演「新しい学校教育課程とへき地・小規模校に期待する実践」の全体構成】

石田有記氏の講演「新しい学校教育課程とへき地・小規模校に期待する実践」は、以下の全体構成で話されました。

0. 新学習指導要領・同総則の全体構造と、本フォーラムで扱う知見
1. 「地域と密着し過疎地域の未来を先導する北海道のふるさと教育」  
— 「社会に開かれた教育課程」と「カリキュラム・マネジメント」 —
2. 「自律的な学習活動を先導する」  
— 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善 —
3. 「個に応じた少人数学習と主体的な学習を先導する」  
— 「児童の発達に応じた支援」と「個に応じた指導」 —
4. 「へき地・小規模校教育実習の取組と学生の成長」  
— 学校運営上の留意事項（小規模学校の運営と教師教育） —

石田有記氏の講演会内容は、12月17日（木）15時半からの第Ⅱ部シンポジウムに連動しています。引き続き、第Ⅱ部シンポジウム連続オンラインフォーラムにご参加ください。なお石田有記氏の講演内容の概要については、別途へきけんニュースでお知らせします。

総合司会：北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター  
副センター長 川前 あゆみ



オンライン発信元の札幌校会場で講演を聴講する参加者



12月17日(木)15:30から シンポジウム

『日本の未来の教育を創造するへき地・小規模校教育の可能性』 開催!!

1. 「地域と密着し過疎地域の未来を先導する北海道のふるさと教育の可能性」

パネリスト 北海道教育委員会 総務政策局長 池野 敦 氏

2. 「自律的な学習活動を先導するへき地・複式授業の理念と方法」

パネリスト 信州大学 学術研究院教育学系教授 伏木 久始 氏

3. 「個に応じた少人数学習と主体的な学習を先導するへき地・小規模校の教育」

パネリスト 北海道教育大学 へき地・小規模校教育研究センター員

水上 丈実(旭川校)・渥美 伸彦(旭川校)

### 参加方法

事前に申し込みが必要です。下記のHP申込フォームからお申し込みください。

[https://www.hokkyodai.ac.jp/edu\\_center\\_remoteplace/forum/](https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/forum/r02-01_edu_forum.html)

[r02-01\\_edu\\_forum.html](https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/forum/r02-01_edu_forum.html)

ぜひ、ご参加ください。

お申込みはこちら→



## 「へき地校体験実習」での学び

旭川校へき地教育アドバイザー 田中 和敏

本学には、札幌、旭川などの都市部の大人数校出身者が多数在学しています。その多くは、いわゆるへき地・小規模校での経験がないため、へき地あるいはへき地校に対して、「へんぴで、生活が不便。」「学校の教材・教具は古く、不足しがち。」「遅れた教育で、児童生徒の学力は低く、進学にハンデがある。」「教員の指導力が劣る。」といった負のイメージを持つ傾向が見られます。

また、へき地・小規模校の出身者でも、一人一人に応じた授業、様々な体験活動、地域と連携した活動などへき地・小規模校の特性を生かした教育活動を受けてはいても、その目的や意義、指導してくれている先生方の願いを理解している学生は非常に少ないのが現状です。

そこで、旭川校では、主に1年生を対象とした「へき地教育論」(半期15回)を開設しています。この講義は、選択単位ではありますが、1年生の半数を超える学生が受講しています。さらに、座学での講義を補うために、2・4年生を対象に「へき地校体験実習」を開設することで、へき地・複式・小規模校教育の実際を肌で体験し、へき地・複式・小規模校教育について実践的な認識を深める機会としています。



お別れ会



教壇実習1



教壇実習2

実習校には、

- ◎触れ合いや観察などによる、へき地・小規模校における児童生徒の生活の様子や実態の把握
- ◎授業観察や「片方の学年→もう一方の学年→両学年」と段階を踏んだ学年別指導の教壇実習などによる複式・小規模学級における授業の在り方
- ◎集合学習や交流学习など少人数における教育活動の協業化の在り方
- ◎地域の特色を生かした体験活動や地域行事への参加を通して、地域と連携した教育活動の実情と在り方など、実習校の特色を生かした教育活動に触れる機会を設けていただいています。

実習を終えた学生からは、次のような感想が多数寄せられています。

- ◎数日しかいませんでしたが、このような学校に勤めたいと思いました。先生と子どもが深く関わっていて、信頼関係があり、理想の教育現場だと思いました。自分はまだ未熟ですが、理想の教師像というのが少し見つかった気がします。
- ◎実習を終えて、今まで思っていたへき地のイメージとは違って、とてもへき地に対して良いイメージ(働きたい)を持つことができました。
- ◎へき地という場所は、今まで自分とはあまり関係することがなく、具体的にどんな場所なのかというのが、全く分かっていなかった。へき地とはどんな場所で、教育はどのように進められ、地域とはどのように関係を持っているのかなど、様々なことを学べて良かった。
- ◎少人数教育の特徴や良さを実感するとともに、教師の責任の重さや児童への対応がすごく難しく感じました。

感想からも分かるように、明るく素直で伸び伸びと学ぶ児童生徒の姿から、複式・少人数学級の授業の利点や課題、難しさなどを実感し、地域住民と一体となった教育活動では、その意義と重要性といった、講義では触れることができない貴重な体験をしています。さらに、へき地・小規模校教育への興味・関心が向上し、その良さや可能性に気づくとともに、へき地・小規模・複式校に対するイメージもプラスに変化しています。特に、都市部の出身者にその傾向が強く見られるように感じています。

このように、へき地校体験実習は、単に教育現場の体験・実習にとどまらず、へき地・複式・小規模校教育に対する認識の向上にも繋がっています。

このような成果をあげることができるのは、2学期始めのご多用な中にも関わらず実習生を受け入れてくださる校長先生をはじめ教職員の皆様のご尽力によるものであり、この紙上を借りてお礼申し上げます。

※本文は、上川へき地・複式教育研究連盟の「上へき・複連情報87号」に寄稿した拙稿に修正加筆したものです。



教壇実習へ向けての指導



地域行事への参加